

## 紹介

# 3年前期開講科目「インターンシップ」の受講案内

一ノ瀬 裕  
Yutaka ICHINOSE

九州産業大学 情報科学部 知能情報学科  
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
ichinose@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~ichinose/>

## 1. インターンシップとは

インターンシップとは「学生が在学中に、企業等において自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」[1]あるいは「学生が在学中に教育の一環として、企業等で一定の期間行う職業体験およびその機会を与える仕組み」[2]と定義されている[3]。大学生だけでなく、高校生[4]や小中学生[5]のインターンシップの話題を目にすることもある。

情報科学部では「インターンシップ」を3年前期の専門選択科目(2単位)として2004年から開講している。本稿では、多くの学生が「インターンシップ」の受講を希望することを願って、この「インターンシップ」の概要を紹介する。

## 2. 受講に際して

「インターンシップ」は他の科目と違って、講義だけでなく企業において企業の人の指導の下に研修を行うため、学生個人としてだけではなく九州産業大学情報科学部の代表として見られることもある。漫然とした気持ちで参加されたのでは、受け入れていただく企業にも大きな迷惑になるし、場合によっては他の学生の就職にも影響を及ぼす。そこで、履修に際して明確な意識を持っていることを確認するため、4月の開講に先立ち、2年後期の1月の学科分け説明会(現在、情報科学部では3年生になる時点で所属する学科を決めている)の時に「インターンシップ」の受講に関する説明を行い、以下の条件で選考を行っている。

ア: 800字程度の自己PR文を提出すること。

イ: 2年前期終了時点で原則として55単位以上を修得していること(2年後期終了時点で70単位以上の修得が見込めること)

イの条件は、インターンシップに参加する学生は3年次なので次年度末に卒業する、すなわちインターンシップを終えて数ヶ月後には就職活動を開始するものと受け入れ企業は想定しているとの声が聞かれたため、2006年か

ら条件として加えたものである。55および70という単位数は、4年次の卒業研究着手には100単位以上の修得が必要なことや履修登録の上限が年間48単位であること、年間の平均修得単位数を考慮して決定した。

## 3. 実施状況

「インターンシップ」の受講学生および受け入れ企業の状況を表1に示す。受講学生数は2006年に激減した。この理由としては、2006年以降、「インターンシップ」が教職課程高等学校教諭一種(情報)における必修科目ではなくなったことの影響が大きいのではないかと推測している。2007年は少し増え、14人が受講した。また、受け入れていただいた企業は毎年10社前後である。福岡市内の企業以外に、年によって熊本市や北九州市、久留米市の企業があった。2007年は初めて東京の企業にも受け入れていただいた。就職において地元志向の強い学生の中から1人でも首都圏の企業での就業を体験できるのは貴重と考えている。

表1 受講学生および受け入れ企業の状況

	2004	2005	2006	2007
受講学生数	20	27	10	14
受け入れ企業数	8	15	9	11

## 4. 講義および研修の内容

前期期間中の講義の内容についてはシラバス[6]に記している。外部の講師により、キャリアプランについての講演(1回)やビジネスマナー(2回)、ビジネスコミュニケーション(2回)の研修を実施しているのが特徴である。

企業での研修の内容に関しては、2006年度の例を下記に示す。必ずしも大学の授業で習ったことの延長線上の内容ばかりではないが、十分な指導が行われており、参加した学生の満足度は高い。

- サーバ構築
- ホームページ作成
- データベース構築
- 同行営業活動、提案資料作成補佐
- プロジェクト体験
- 工事・保守や営業という会社の一連の業務の体験

## 5. 最 後 に

企業での就業体験は、体験した学生のその後の就職活動に大きな影響を与えていると思われる。企業からの評価も高く、毎年1、2名が研修を行った企業に内定している。また、就職してから3年以内に3割と言われる離職率[7]の低下にも少なからず寄与していくものと考えている。多くの学生に是非受講してもらいたい。

### ◇ 参 考 文 献 ◇

- [1] 文部省、通商産業省、労働省「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」報道発表資料、平成9年9月18日  
<http://www.meti.go.jp/press/olddate/industry/r70918a2.html>
- [2] 関西経営者協会「インターンシップ制」  
[http://www.kankeikyo.org/contents/06\\_intern/index.htm](http://www.kankeikyo.org/contents/06_intern/index.htm)
- [3] 古閑博美「インターンシップ—職業教育の理論と実践—」学文社 2001.06
- [4] 神奈川県「高校生のインターンシップ」  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kyoikusomu/sonota/kikan/0211/021102.htm>
- [5] YOMIURI ONLINE (読売新聞)「インターンシップ 小中学生も対象に」  
<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/yamanashi/kikaku/005/344.htm>
- [6] 情報科学部シラバス「インターンシップ」  
<http://www.is.kyusan-u.ac.jp/curriculum/syllabus/PDF/08/JYOUHO0050.pdf> (このアドレスは毎年変わると予想されます。アクセスできなくなった場合は情報科学部のページ<http://www.is.kyusan-u.ac.jp/>から「学生の皆さんへ」「シラバス」「科目名」「インターンシップ」の順に辿って下さい)
- [7] 文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会 (第1回) 議事録・配付資料 資料 6(20)「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/015/06042718/006/004.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/015/06042718/006/004.pdf)  
(URLは2007年8月12日現在)